

第9回シンポジウム

『環境・常在細菌と自然免疫』

開催日程 令和3年3月5日(金)～ WEB開催(オンデマンド配信型)

※ 視聴無料、事前申し込みが必要です。

【録画配信】3月5日(金)10:00～3月12日(金)17:00

配 信 内 容

- ◆ 挨拶 自然免疫制御技術研究組合 代表理事 杣 源一郎
経済産業省 商務情報政策局 生物化学産業課(予定)
一般財団法人バイオインダストリー協会
一般財団法人四国産業・技術振興センター
- ◆ 講演 「健全な土壌環境と微生物 –肥沃な土壌は健康な農産物を作る–」
久保 幹 氏 (立命館大学 生命科学部 教授)
「LPSによる美肌維持のしくみ」
河内 千恵 氏 (自然免疫制御技術研究組合 理事)
「酢酸菌の自然免疫活性化物質」
橋本 雅仁 氏 (鹿児島大学 理工学域工学系 教授)
「肥満・糖尿病を予防する機能性食品成分としてのLPSのポテンシャル」
山本 和史 (自然免疫制御技術研究組合 主任研究員)
「認知症の新奇予防・治療薬としてのLPS」
溝渕 悠代 (自然免疫制御技術研究組合 特任研究員)
「自然免疫を介した新型コロナウイルス感染症予防の可能性について」
稲川 裕之 (自然免疫制御技術研究組合 研究開発本部長)

主催 自然免疫制御技術研究組合

後援 (予定) 経済産業省、農林水産省、(国研)農研機構生研支援センター、(国研)科学技術振興機構、(公財)北海道科学技術総合振興センター、新潟薬科大学、(一財)バイオインダストリー協会、(公財)かがわ産業支援財団、(一財)四国産業・技術振興センター

◆問い合わせ先◆

自然免疫制御技術研究組合(中本・細川・川西) TEL:(087)813-9201 FAX:(087)813-9203

第9回シンポジウム『環境・常在細菌と自然免疫』の開催にあたり

昨年度のシンポジウムは新型コロナウイルス感染症のために延期を余儀なくされました。関係の皆様方に多大なご迷惑をお掛け致しましたことにお詫び申し上げます。また今回のシンポジウムも緊急事態宣言を含むコロナの影響を勘案致しまして、WEB開催とさせて頂くこととなり、ご講演頂く先生の一部変更などもあって、ご講演を楽しみにされていた参加者の皆様におかれましてはご期待に沿えないことになってしまいましたことに改めてお詫びを申します。尚、WEB開催の詳細につきましては速やかに事務局からご連絡を差し上げるよう現在準備を加速させておりますので、是非ご視聴頂きますようお願い申し上げます。

さて「自然免疫制御技術研究組合」は、糖脂質(リポ多糖、LPS)等を用いて自然免疫を制御する有用な技術を開発する目的で、平成22年3月8日、経済産業省の認可を受け、全国で12番目、四国では初めての技術研究組合として設立されました。現在、自然免疫活性を制御するさまざまな新規な素材の研究開発に取り組むとともに、自然免疫制御による健康維持戦略の確立に向けリテラシー向上にも力を注いでおります。

また、平成26年度には、内閣府の主導する戦略的イノベーション創造プログラム(略称SIP)次世代農林水産業創造技術において、東京大学大学院・阿部啓子特任教授が取りまとめられる「次世代機能性農林水産物・食品の開発」に属する「ホメオスタシス多視点評価システム開発グループコンソーシアム」(代表研究機関:自然免疫制御技術研究組合)が採択され、30年度までの5年間にわたって、「ホメオスタシス維持機能をもつ農林水産物・食品の機能性成分評価手法の開発と作用機序の解明」にむけて研究開発を進めてまいりました。これを踏まえて前回のシンポジウムまではSIP事業のアウトリーチ活動として、「ホメオスタシス多視点評価システム開発グループコンソーシアム」と「自然免疫制御技術研究組合」の共催で開催させて頂きました。SIP事業は昨年度で終了いたしましたので、再び自然免疫やマクロファージそしてLPSに焦点を当ててシンポジウムを開催する運びとなりました。

日本が長寿国家であることは誇るべきことでありますが、その一方で、高齢化に伴い医療費が増加している事実にも表れているように、必ずしも健康とは言えない状態にある高齢者も少なくありません。また今般の新型コロナウイルス感染症で目の当たりにしているように、グローバル化が進んだ現代において、新興感染症のパンデミックな拡大のリスクが大きくなっております。このような新興感染症対策を含めて、超高齢社会において良好なQOLを保つ対策を具体的に提供することは、今後の大きな課題の一つであることは明らかです。その具体的な取組として、環境との接点、すなわち皮膚や粘膜上(皮膚・口腔粘膜や消化管粘膜)での自然免疫の有用性や常在細菌から供給されるLPSのホメオスタシス維持機能は昨今大きな注目を浴びる研究課題になっております。

今回、「第9回シンポジウム『環境・常在細菌と自然免疫』」は、以上の背景を踏まえまして、環境応答が自然免疫とどのように関わっているのか、また環境由来あるいは常在細菌のLPSがいかにかにホメオスタシス維持に本質的な役割を果たすか、につきまして、最新的话题を取り上げ広く一般の皆様に関心するものです。

つきましては、今回は以上の分野で先駆的な研究を展開しておられる先生方をお招きしてご講演をお願いすることと致しました。ご講演頂く先生方は鹿児島大学学術研究院理工学域工学系教授・橋本雅仁氏、立命館大学生命科学部教授・久保幹氏、自然免疫制御技術研究組合理事・河内千恵氏です。これに加えまして、本組合の最新の研究成果をご披露申し上げたいと考え、主任研究員・山本和史、特任研究員・溝淵悠代、そして研究開発本部長・稲川裕之よりLPS摂取やマクロファージの新型コロナウイルス感染症対策など健康維持における重要性について最近の取り組みを中心に講演させて頂きたいと存じます。

本シンポジウムが免疫関連の研究者、予防医療や健康産業に携わっておられる各界の皆様、そして免疫に興味をお持ちの皆様、環境・常在細菌と自然免疫に関する研究と開発の現状やこれからの展望を理解していただく機会になるとともに、新型コロナウイルス感染予防の一助ともなり、また組合活動を広く皆様の健康維持活動に繋げるための普及広報につながれば幸いです。

組合活動につきまして日頃から皆様のご理解とご支援を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

講演者紹介

久保 幹 氏

立命館大学
生命科学部 教授

《(社)SOFIX農業推進機構
代表理事、琵琶湖Σ研究センター
センター長、生物資源セン
ター 副センター長》

生まれ: 広島県
1983年 広島大学工学部卒業
1995年 広島大学大学院博士課程前期課程修了
1992年 博士(工学、大阪大学)
1994年 米国イリノイ州立大学医学部・文部省在外研究員
1997年 立命館大学理工学部助教授
2002年 立命館大学理工学部教授
2008年 立命館大学生命科学部教授 現在に至る



河内 千恵 氏

自然免疫制御技術研究組合
理事

立命館大学理工学部化学科卒。広島大学大学院工学研究科・博士課程終了(工学博士)。ファイザー製薬(株)、日本学術振興会・がん特別研究員、帝京大学、広島大学での助手を経て、2006年から自然免疫応用技術株式会社代表取締役。2011年より現職。



橋本 雅仁 氏

鹿児島大学 学術研究院
理工学域工学系 教授

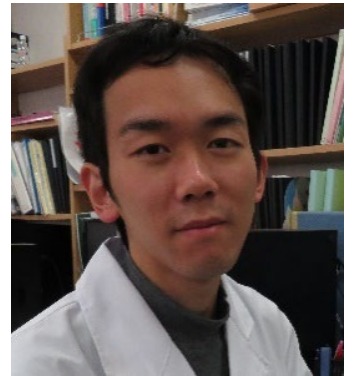
神戸大学理学部化学科卒業
大阪大学大学院理学研究科有機化学専攻修了、博士(理学)。
朝日大学歯学部助手、鹿児島大学大学院理工学研究科助教授、准教授をへて2015年より現職。現在の専門は、生体分子の化学構造解析・生物機能の解明など。



山本 和史

自然免疫制御技術研究組合
主任研究員

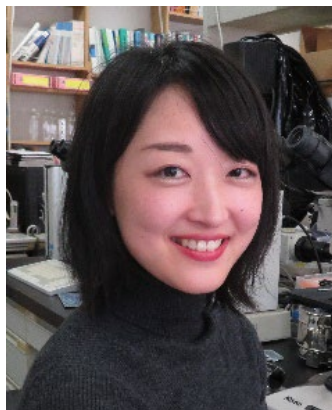
2019年3月
東北大学大学院
農学研究科修了
博士(農学)取得



溝渕 悠代

自然免疫制御技術研究組合
特任研究員

2018年3月
東京大学大学院
農学生命科学研究科
獣医学専攻博士課程
修了
獣医学博士取得



稲川 裕之

自然免疫制御技術研究組合
研究開発本部長

埼玉大学工学部卒業
薬学博士
水産大学校准教授
を経て、2011年より
現職。
グラム陰性菌のLPSが
極めて有用なことを30
年前に見出し、以来
LPSの基礎と実用化に
ついて研究を展開して
いる。

